

平成26年度事業報告

はじめに

公益財団法人科学技術広報財団（以下「財団」という）は、広く社会に対する科学技術の広報啓発と科学技術振興への寄与という使命及び社会的意義を認識し、その目的を達すべく中長期的な視野で事業を展開している。

平成26年度事業は、定款に基づき科学技術への関心や興味喚起及び科学知識の理解増進、科学技術に関する情報発信、科学知識普及、人材育成、広範な科学技術に関心と理解を深める広報活動に関する事業等を実施した。

平成26年度に実施した事業は以下の通りである。

I. 全体運営

(1) 理事会の開催

- ・平成26年6月10日（火） 第5回理事会
 - ① 平成25年度事業報告書及び平成25年度決算報告書を承認した。
 - ② 第2回評議員会の招集について承認した。
 - ③ 理事長及び常務理事より職務執行状況を報告した。

- ・平成26年6月24日（火） 第6回理事会
 - ① 理事長及び常務理事の選任を承認した。

- ・平成27年3月5日（木） 第7回理事会
 - ① 平成27年度事業計画書及び平成27年度収支予算書を承認した。
 - ② 理事長及び常務理事より職務執行状況を報告した。

(2) 評議員会の開催

- ・平成26年6月24日（火） 第2回評議員会
 - ① 議事録署名人を選出した。
 - ② 平成25年度事業報告書及び平成25年度決算報告書を承認した。
 - ③ 評議員1名の退任・選任を承認した。
 - ④ 理事12名の選任を承認した。

(3) 役員・評議員及び職員の状況

① 役員 の 現 状 (平成27年3月31日現在)

役職	定数 (人)	現員 (人)
理事長	1人	1人
専務理事	1人	0人
常務理事	2人以内	1人
理事	5人以上12人以内	12人 (非常勤9人・常勤3人) (うち、理事長1名及び常務理事1名)
監事	3人以内	2人

② 評議員 の 現 状 (平成27年3月31日現在)

定数	現員 (人)
5人以上12人以内	11人

③ 職員 の 現 状 (平成27年3月31日現在)

区分	職員数 (人)
本部事務局	4人
新潟県立自然科学館	7人
神戸市立青少年科学館	3人
計	14人

④ 役員 の 異 動

退 任		就 任	
退任日	氏 名	就任日	氏 名
平成 26 年 6 月 24 日	池田 富士太 井上 義也 大橋 雄吉 佐々木 孝二	平成 26 年 6 月 24 日	沖村 憲樹 (重任) 熊澤 健一 (重任) 高松 賢一 (重任) 赤池 学 (重任) 今村 努 (重任) 福島 三喜子 (重任) 間宮 馨 (重任) 和田 智明 縣 秀彦 齋藤 信次 日置 光久 広瀬 研吉

⑤ 評議員 の 異 動

退 任		就 任	
退任日	氏 名	就任日	氏 名
平成 27 年 3 月 31 日	加藤 善一	平成 26 年 6 月 24 日	加藤 善一

(4) 広報活動

最新の科学及び技術に関するトピックスを提供するほか、科学技術に関わる法人・団体とのネットワークを充実させることにより、ホームページ及びWEBを通じた財団広報活動の活性化を図った。

(5) その他

財団の新規事業企画及び推進のため、外部の専門家からなる企画委員会を開催した。

II. 事業

1. 科学技術の広報に関する調査研究及び刊行物等の編集及び頒布

(1) 科学ポスターの企画・作成及び提供

最新の科学研究成果への興味喚起及び知識の理解増進を目的として、科学ポスター（太陽系図）を制作し頒布を開始した。

また、日本人3氏のノーベル物理学賞受賞を機に科学ポスター「青色LED」を制作し頒布を行った。

事業の継続的発展を図るため、Amazonへの出店に続きエデュ・タウンへの出店を行った。また、継続して書店、科学館及び大型科学企画展事業者などの販売委託機関の拡大に努めた。

① 売上件数 : 2,812件

② 売上総枚数 : 96,000枚

③ 取扱店舗数 : 科学館・博物館ミュージアムショップ : 16店舗、書店 : 9店舗、
大学生協 : 15店舗、WEB:2店舗 (Amazon、エデュ・タウン)、
計42店舗 (平成27年3月31日現在)

2. 科学技術に関する広報啓発並びに人材の育成

2-1. 科学館の運営及び運営支援

(1) 新潟県立自然科学館の指定管理者（民間事業者との共同事業）として、平成22年4月から平成27年3月まで5年間の管理・運營業務を実施した。

平成26年度来館者実績 : 235,127人

5年間の総来場者実績 : 1,289,842人 (257,968人/年)

平成27年4月から5年間の指定管理者（民間事業者との共同事業）に応募し、選定された。

(2) 横浜こども科学館に対する運営協力として、展示運営及び教育普及活動の企画支援を実施した。

- (3) 神戸市立青少年科学館の指定管理者（民間事業者との共同事業で期間は平成26年4月1日～平成30年3月31日の4年間）として、一部展示の更新、特別展、実験教室の開催ほかを実施した。

2-2. 展示・映像コンテンツの企画・開発及び提供

(1) 展示コンテンツの開発

自主企画・制作による「こわいもの展」を新潟県立自然科学館で実施した。

- (2) 海をテーマとした科学館のプラネタリウムを活用した映像企画提案「（仮称）海に生まれ海に帰る」が公益財団法人日本財団の平成27年度助成事業に採択された。

(3) 展示・映像コンテンツの提供

- ① 「サイエンスクエスト」が青森県立三沢航空科学館（7/19～8/24）で実施された。
- ② 「海底二万里の世界展」（平成25年夏に新潟県立自然科学館で実施）が愛媛県立総合科学博物館（4/19～6/22）及びアクアワールド茨城県立大洗水族館（7/19～9/15）で実施された。
- ③ 自主企画・制作コンテンツのプロモートを推進し、「こわいものめぐり展」の愛媛県立総合科学博物館（4/18～6/21）、青森県立三沢航空科学館（7/18～8/30）での実施が決定した。

3. 科学技術普及・利用に係る広報・支援及び施設・展示の企画・立案

(1) 科学技術関連団体の広報活動支援

日本科学オリンピック推進委員会が開催する各種国際科学オリンピックの情報及び地学の日本委員会事務局への支援業務を継続して実施した。

(2) 団体・企業の広報活動支援（収益事業）

団体・企業からの依頼により、団体・企業の持つ科学技術の普及と利用促進を目的とした広報活動への支援を実施した。

4. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(1) ロボット研究開発技術のアーカイブ化

これまで収集したロボットの分類等の整理作業を行った。

以上